

消防施設整備5カ年計画（第11次）

令和4年～令和8年

現況

昭和47年に第1次消防施設整備5カ年計画を策定以来、平成29年度に第10次計画を策定し、順次整備充実を図ってきた。

平成22年3月に六合村との合併により、現在における整備状況は、消防ポンプ自動車10台、可搬動力ポンプ15台、可搬動力ポンプ積載車13台を有し、実態調査表における国の充足率は、83.3%となっている。

消防水利においては、防火水槽425基（基準にあったもの319基）消火栓384基であり、毎年増加しているが、有効水利確保のため今後も引き続き整備促進を図る必要がある。

消防機械器具については、各種火災に対応できる機械器具の導入と充実を図ってきているが今後も引き続き整備充実を図っていく必要がある。また自動車ポンプ及び積載車は4輪駆動車が導入されてきて平成17年度に第4分団第1部に積載車が更新され、全ての部において4輪駆動車が整備された。

なお、消防ポンプ自動車、可搬動力ポンプ、可搬動力ポンプ積載車については、耐久性の向上が認められるところであり、耐用年数の延長を図ってきたところである。

さらには、近年の消防団員については、全国的に団員の不足が問題となっており、当町においてもある地域で定員確保が難しい状況であるが、地域住民の安全・安心の確保について、部の統廃合等を考慮しながら、団員の確保に努めていかななくてはならない。

計画

○ 消防ポンプ自動車、可搬動力ポンプ及び可搬動力ポンプ積載車については、老朽化の解消と消火能力の向上を図るため、耐用年数を定めて計画的に更新整備する。

耐用年数については、消防ポンプ自動車（4輪駆動車のCD－Ⅰ及びⅡ型）20年、可搬動力ポンプ積載車（4輪駆動車）20年、可搬動力ポンプ20年とする。

また、消防ポンプ自動車（4輪駆動車のCD－Ⅰ型及びⅡ型）、可搬動力ポンプ積載車（4輪駆動車）については、次期更新時にも同様の4輪駆動車で対応することとする。

更に近年車両重量の増加により、団員の所有免許での対応が困難になってきているため、準中型免許取得補助を引き続き推進する。

○ ホースの整備については、今後も不良ホースの補充を行うため逐次整備する。

○ 防火水槽については、行政区からの要望と所管の各分団各部と相談の上、消防水利確保のため、当初予算で要望基数（2基以内）を確保する。

○ 消火栓については、当町の水事情を考慮しつつ、企業課と連携し整備を推進するとともに、老朽化等修繕を要するものについては随時改修していく。

○ 機械器具置場及び詰所については、昭和47年から整備を実施し、全ての部で整備されてきたが、今後においても消防機械器具を最良の状態に保管するとともに、消防活動の拠点としての詰所の整備充実を推進する。

○ 消防用ゴム長靴については、訓練及び火災現場における事故防止のため随時補充する。

○ アポロキャップとTシャツについては、消防団のイメージアップと機能性を向上させるため、定期的な整備を行う。

○ ヘルメットについては、現場における団員の安全を確保する重要な装備であり、5年を目途に更新する。

○ 上記のほか、必要に応じた消防施設等の整備を推進する。

消防施設設備整備計画

種 類 \ 年 度	4	5	6	7	8	備 考
消防ポンプ自動車	1	1				
可搬動力ポンプ積載車						
可搬動力ポンプ						
防 火 水 槽	2	2	2	2	2	
消防用ゴム長靴	50	50	50	50	50	新入団員及び補充分
ホ ー ス	20	20	20	20	20	破損等交換
T シ ャ ツ			338			
アポロキャップ		338				
ヘルメット		200				本団役員及び各部10個

消防ポンプ自動車・可搬動力ポンプ及び積載車更新計画

分団	部	種別	更新 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	総合 点検	次期 更新	SDタイ ヤ更新	備考
第1分団	1	自	H30						R10	R20	R7	中之条
	2	自	R3						R13	R23	R10	伊勢町
	3	自	R4	○					R14	R24	R11	西中之条
	4	自 ポ	H30 H20						F10 R8	R20 R10	R7	青山 市城
第2分団	1	自	H20						R10	R10	R4	山田
	2	ポ 積	H20 H20						R10	R10	R4	折田
	3	ポ 積	H24 H24						R4	R14	R8	上沢渡
	4	自	H24						R4	R14	R8	下沢渡
	5	ポ 積	R3 R3						R13	R23 R23	R10	下四万
	6	自	H15		○				R15	R5	R12	四万温泉
第3分団	1	ポ 積	H24 H24						R4	R14	R8	岩本 大道
	2	自	H29						R9	R19	R6	五反田
	3	ポ 積	H23 H23						R3	R13 R13	R7	蟻川
第4分団		ポ 積	H13 H17							— —		平 (4-2へ)
	1	自	H19						R9	R9	R10	横尾
	2	ポ 積	H13 H17							— —	R9	赤坂 (平車両)
	2	ポ 積	H23 H23						R3	R13 R13	R7	大塚
第5分団	1	自 積	R3 R3						R13	R23 R23	R10	詰所 (小雨)
	1	ポ 積	R2 R2						R12	R22 R22	R9	詰所 (赤岩)
	1	ポ 積	R1 R1						R11	R21 R21	R8	詰所 (八幡)
	1	ポ 積	H11 H11						R11	— —	R8	車庫 (湯久保)
	2	ポ 積	R1 R1						R11	R21 R21	R8	詰所 (引沼)
	2	ポ 積	H21 H21						R11	R11	R5	詰所 (根広)
	2	ポ 積	H11 H11						R11	— —	R8	詰所 (和光原)

※ 自:自動車ポンプ(20年経過年度に更新・10年経過年度に総合点検)
 ポ:可搬動力ポンプ(20年経過年度に更新・10年経過年度に総合点検)
 積:可搬動力ポンプ積載車(20年経過年度に更新)
 (スタッドレスタイヤ:7年毎に更新)

消 防 団 概 要

1 消防団員数の推移

昭和30年 4月 15日	4か町村合併により	645 人
昭和32年 9月 28日	副団長1名増(副団長4名)により	646 人
昭和40年 9月 1日	団組織の改革により	373 人
昭和41年 4月 1日	第2分団第6部(四万)10名増により	383 人
昭和43年12月 1日	第1分団第1部(中之条)第2部(伊勢町)各5名増加により	393 人
昭和55年 4月 1日	副ラッパ長新設により	394 人
昭和62年 4月 1日	団組織の改革により	304 人
平成14年 4月 1日	副団長1名増により	305 人
平成22年 3月 28日	六合村との町村合併により	415 人
平成26年 4月 1日	第5分団の定数見直しにより32名減	383 人
平成29年 4月 1日	副団長1名減	
	第5分団の部統廃合により14名減	
	第2分団第6部(四万)5名減	
	第4分団第1部(平、横尾)第2部(大塚、赤坂、栃窪)各5名	353 人
平成30年 4月 1日	第1分団第4部第5部の部統合により5名減	348 人
平成31年 4月 1日	副団長1名増により	349 人
令和 4年 4月 1日	団員数見直しにより11名減	338 人
令和 6年 4月 1日	第3分団の部統廃合により15名減	
	第1分団第4部(青山、市城)5名減	
	第2分団第6部(四万)5名減	
	第4分団第1部(平、横尾)第2部(大塚、赤坂、栃窪)各5名減	
	第5分団第2部(花敷、引沼、世立、京塚、田代原、熊倉、根広、和光原、長平、小倉)5名減	298 人

2 団の組織(令和6年4月1日以降)

